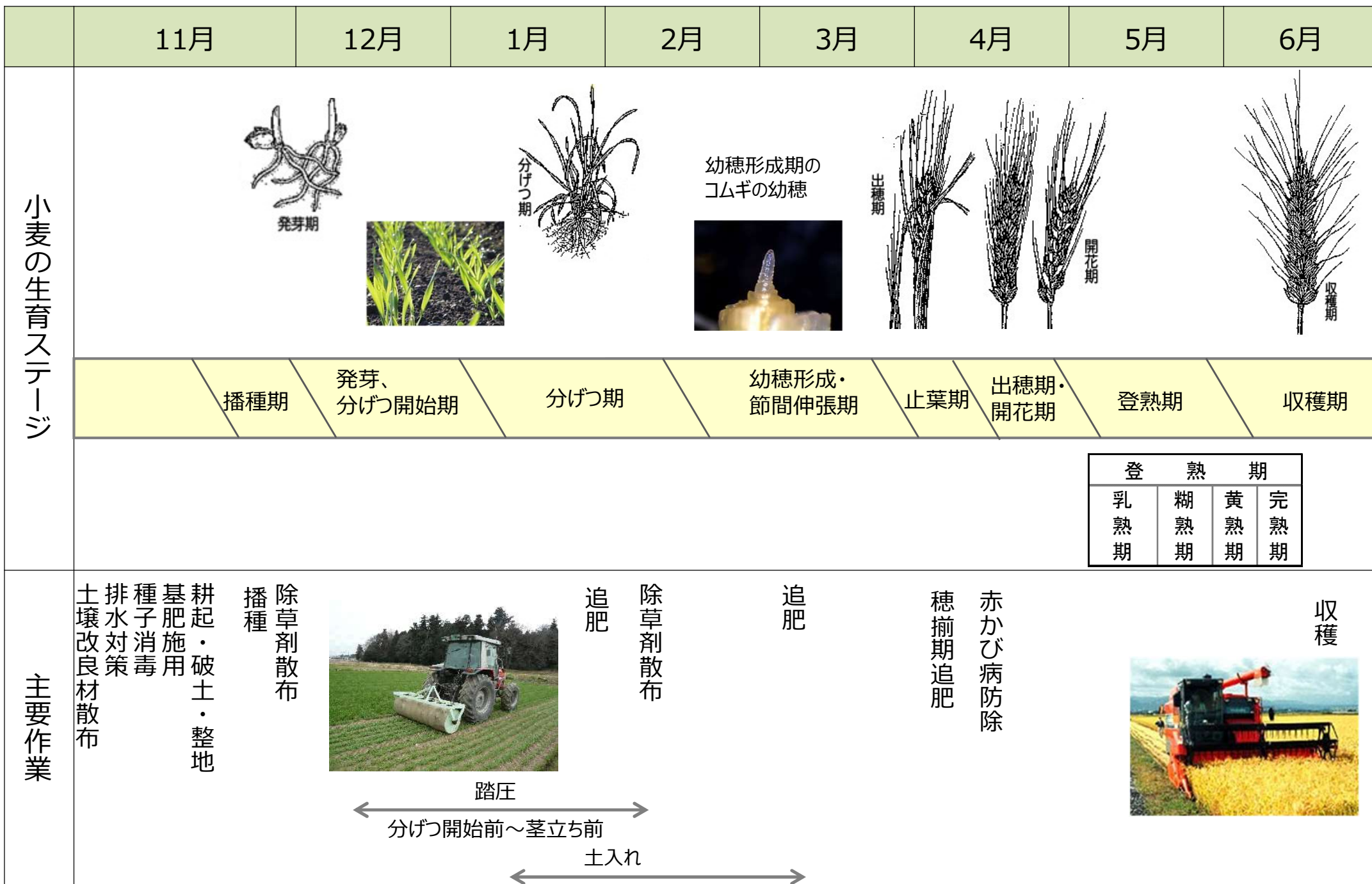


# 小麦の生育ステージと主要作業（都府県 秋まき小麦の例）



注：栽培時期は九州地方の事例 地域によっては、追肥回数など作業体系が異なる場合もある。

# 小麦の生育ステージと主要作業（北海道 秋まき小麦の例）

	9月	10月	11月	12～2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
秋まき小麦の生育ステージ										
	播種	出芽期 (5～6葉まで生育)	越冬期	起生期	幼穂形成期	止葉期	出穂期・開花期	登熟期	収穫期	
	<p>【参考】小麦の播種期（R7年産）</p> <p>十勝：9月23日（平年比遅1日）</p> <p>オホーツク：9月22日（平年比±0日）</p> <p>全道：9月20日（平年比±0日）</p> <p>※上川など早い地域では9月中旬から播種</p>					<p>【参考】小麦の成熟期（R7年産）</p> <p>十勝：7月12日（平年比早8日）</p> <p>オホーツク：7月14日（平年比早7日）</p> <p>全道：7月12日（平年比早6日）</p>				
主要作業	耕起・破土・整地 基肥施用 種子消毒 排水対策 土壌改良材散布	除草剤散布	雪腐病防除	融雪剤散布	追肥・（麦踏み）	追肥	追肥	赤かび病防除	収穫	
										

注：北海道秋まき小麦（道東）の事例。追肥等の回数等の作業体系は地域によって異なる場合がある。播種及び成熟期の月日については、「農産技術だより」第26号より引用。

# 小麦の生育ステージと主要作業（北海道 春まき小麦の例）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき小麦の生育ステージ										
	<p>播種      出芽期      幼穂形成期・止葉期      出穂期・開花期      登熟期      収穫期</p>									
	<p>【参考】小麦の播種期（R7年産） 全道：4月22日（平年比遅7日）</p>					<p>【参考】小麦の成熟期（R7年産） 全道：7月23日（平年比早6日）</p>				
主要作業	土壌改良材散布・排水対策		元肥散布	除草剤散布	赤かび病防除	収穫				<p>【参考】主な春まき小麦品種 「春よ恋（H11 出願公表）」 「はるきり（H19出願公表）」</p>

注：北海道春まき小麦の事例。播種及び成熟期の月日については、「農産技術だより」第26号より引用。

# 単収・品質の向上に向けた栽培技術の導入

- **排水性の向上**や**労働時間の短縮**につながる栽培技術の導入、田畑輪換による**地力低下への対策**等を推進することで、単収と品質を向上させ、実需者の求める麦づくりの実現を目指す。
- **個々の圃場環境にあわせた対策**を行える環境整備を進める。

## 湿害対策

### 水田の汎用化

- ・排水改良、暗渠排水等導入
- ・補助暗渠等
- ・区画整理



### 排水対策の強化

- ・補助暗渠施工、心土破砕等による排水性改善



### 排水対策の見直し・導入

- ・圃場の状況に即した排水対策の見直し、新規導入を呼びかけ

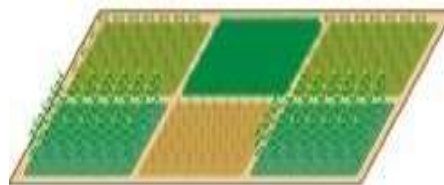


## 個々の農家のレベルアップ

- ・産地において品質を把握し、生産者に結果をフィードバックすることで営農指導等に活用する取組を推進。



## 水田においても単収・品質の向上を可能にする圃場環境を整備



## 土づくり

- ・牛ふん堆肥・ペレット堆肥等の実証的な活用による全国的な土づくりの展開
- ・科学的データに基づく土づくり



# 生産性の高い麦産地の育成

- 産地単位で①農地の集約・団地化、②スマート農業の導入、ICTの活用、③地域に適した品種の導入等に取り組むことで、作業効率の向上による作業時間の縮減、排水性の改善による収量・品質の向上、生産コストの低減といった生産性向上による効果を一層発現させることができる。
- こうした生産性向上に向けた取組を「産地単位」で行えるよう後押ししていく必要がある。

## 農地の集積・集約化、団地化の推進

### 地域計画との連携

- ・担い手への集積・集約と作付けの団地化



### 集約インセンティブの強化

- ・団地化等に取り組む産地への支援
- ・地域集積協力金の見直しによる農地集約のインセンティブを強化

#### 団地の推進



### 地理空間情報の活用

- ・水田台帳と農地台帳等のデータ連携
- ・データを活用した現状評価と効率的集約を推進

#### 地理情報のDB化・活用



## 精密な営農管理・生産性向上

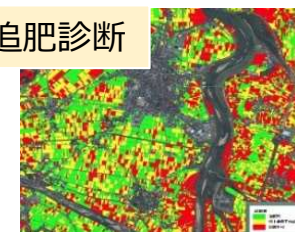
- ・スマート農業技術の導入実証の実施と導入モデル策定、横展開。



- ・シェアリング等により低コストでの導入を促す新たな農業支援サービスの実証

- ・生育予測システムや営農データの活用法の周知・現場への浸透

#### 追肥診断

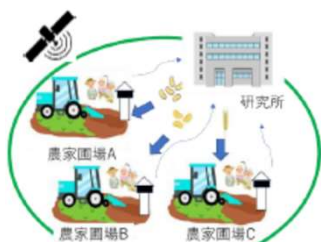


- ・地域ぐるみのデータを活用した営農体系への転換支援

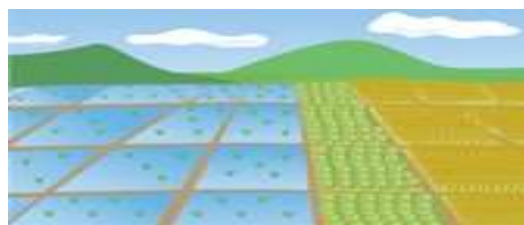
## 地域に適した品種導入

- ・地域に最適な稲・麦・大豆の品種の組合せと栽培法の確立実証の実施

センシング技術を活用し品種の組合せと栽培方法を最適化



## 水田地帯においても生産性の高い麦・大豆産地の造成



# 品種転換の状況

- 小麦については、北海道、関東、東海において、大麦は主産地において品種転換が進んでいる。
- 需要に応じた生産に向けて、実需者が求める品質等を実現できる品種への転換を進める必要がある。

## 近畿・中国・四国 23,860ha

### 日本用小麦

びわほなみ (2018年)  
 さぬきの夢2009 (2010年)  
 ふくさやか (2002年)  
 農林61号 (1944年)  
 ふくほのか (2006年)  
 シロガネコムギ (1974年)

### パン・中華用小麦

せときらら (2013年)

### 二条大麦

サチホゴールド (2006年)

### 六条大麦

ファイバースノウ (2001年)

### はだか麦

ハルヒメボシ (2012年)

## 九州 62,405ha

### 日本用小麦

シロガネコムギ (1974年)  
 チクゴイズミ (1994年)

### パン・中華用小麦

ミナミノカオリ (2004年)  
 ちくしW2号 (2008年)  
 はるみずき (2018年)  
 はる風ふわり (2018年)

### 二条大麦

はるか二条 (2013年)  
 サチホゴールド (2006年)  
 はるしずく (2005年)  
 ニシノホシ (1999年)  
 はるさやか (2018年)

## 北陸 11,200ha

### 六条大麦

ファイバースノウ (2001年)  
 はねうまもち (2017年)

## 東海 18,000ha

### 日本用小麦

あやひかり (2000年)  
 きぬあかり (2009年)  
 さとのそら (2009年)  
 イワイノダイチ (1999年)

### パン・中華用小麦

ニシノカオリ (1999年)  
 ゆめあかり (2013年)

## 北海道 133,755ha

### 日本用小麦

きたほなみ (2007年)  
**パン・中華用小麦**  
 ゆめちから (2008年)  
 春よ恋 (1999年)  
 はるきらり (2007年)  
 キタノカオリ (2001年)

### 二条大麦

札幌2号 (2014年)

## 東北 8,517ha

### 日本用小麦

ナンブコムギ (1951年)  
**パン・中華用小麦**  
 ゆきちから (2003年)

## 関東 37,992ha

### 日本用小麦

さとのそら (2009年)  
 あやひかり (2000年)

### 醤油・中華用小麦

ゆめかおり (2009年)

### 二条大麦

ニューサチホゴールド (2015年)  
 アスカゴールド (2012年)

### 六条大麦

シュンライ (1990年)  
 カシマゴール (2010年)

資料：農林水産省穀物課調べ  
 (R6年産、作付面積1,000ha以上の品種)  
 括弧：育成年  
 赤色：20世紀の品種

# 麦・大豆ストックセンター整備対策等の成果

- 産地・年産ごとに生産量・品質の変動が大きく、安定供給体制の確立が急務。
- 実需者に対して国産麦・大豆を安定的に供給できる体制を構築することを目的として、豊作時に一定数量を保管し、不作時に供給するためのストックセンターの整備を支援。

◆ これまでに安定供給を目的とした保管庫を18件整備、延べ保管能力は約5.6万トン

麦・大豆保管施設整備事業（R2補正、R3補正）	採択件数	10件	総交付額	15.4億円
国産小麦安定供給強化対策（R4予備費）	採択件数	1件	総交付額	3.0億円
麦・大豆ストックセンター整備対策（R4補正、R5補正）	採択件数	6件	総交付額	14.2億円
新基本計画実装・農業構造転換支援事業（R6補正）	採択件数	1件	総交付額	2.2億円

## <整備事例>

### ○佐賀県農業協同組合（R4補正）

【構造】定温倉庫：3,657㎡  
保管能力：6,042 t  
【所在地】佐賀県佐賀市

### ○東海・大豆コンソーシアム（R4補正）

【構成員】  
・有限会社古田商店  
・株式会社互明商事  
・全国農業協同組合連合会

【構造】定温倉庫：688.5㎡  
保管能力：1,000 t  
【所在地】愛知県名古屋市

### ○北海道産麦コンソーシアム（R2補正）

【構成員】  
・ドーフン  
・江別製粉、横山製粉、木田製粉  
・北海道製粉工業協同組合  
・北海道農業協同組合中央会  
・ホクレン農業協同組合連合会  
・北海道農政部

【構造】定温倉庫：3,000㎡  
保管能力：6,000t  
【所在地】北海道石狩市

### ○大豆安定出荷コンソーシアム（R3補正）

【構成員】  
・北海道グレインカンパニー  
・オホーツク十勝豆づくり部会  
・片岡商店  
・高田商店  
・あいち醸社

【構造】定温倉庫：1,632㎡  
保管能力：2,545 t  
【所在地】北海道網走郡美幌町

### ○国産麦安定供給体制強化構築に向けたコンソーシアム（R2補正）

【構成員】  
・山本忠信商店  
・事業協同組合チホク会

【構造】コルゲート定温サイロ（750t×8基）  
保管能力：6,000t  
【所在地】北海道音更町

